

さんのみやしもきつねいせき

三ノ宮・下木津根遺跡

(伊勢原市No.106遺跡)

調査期間 20081016～20081226

所在地 伊勢原市三ノ宮下木津根

時代

縄文
弥生～古墳
古代
近世



概要

三ノ宮・下木津根遺跡の発掘調査は平塚土木事務所が実施する、平成20年度県道63号(相模原大磯線)交通安全施設等整備事業に伴う調査として行われました。昨年末に発掘調査を終了し、出土遺物・遺構などの整理作業を行いました。

遺跡は小田急線伊勢原駅から南西へ2.2km程に位置しています。大山の裾野に広がる伊勢原台地の南西部分に当たり、板戸川により開かれた台地であるため標高が20~30m程の高台にあります。今回調査した遺跡は伊勢原市と平塚市との市境に当たり、道路を越えると平塚市に入ります。周辺の遺跡には方形周溝墓(ほうけいしゅうこうぼ)群で著名な平塚市岡崎権現堂遺跡や平塚市桜畑遺跡、伊勢原市三ノ宮・上木津根遺跡などがあり、弥生時代から中・近世までの幅広い時代の遺跡が数多く確認されています。

三ノ宮・下木津根遺跡は近世、古代、弥生時代~古墳時代、縄文時代に亘る遺跡です。調査区は南北に約45m、東西に約4mと細長く、中央部分は通路として使用するために2地区に分けて北側をA区、南側をB区と呼称しています。調査面積も狭いものでしたが、数多くの遺構と遺物に恵まれ、大きな成果を上げることができました。

近世の遺構では中心となるのは1号道状遺構、長さは最長42m、幅は最大で1.5m、掘り込みの深さは最大で1.5mを測ります。道の端の部分に当たり、道の硬化面は合計3面、宝永火山灰層の上に第1、第2面、宝永火山灰層の下に第3面が見つかりました。現在の県道にほぼ沿っていることから、当時から境界としてほぼ同じ場所に道が作られていたことがわかりました。

古代の2号竪穴状遺構からは方形の責め金具と考えられる銅製品が1点出土しています。

弥生時代~古墳時代の遺構では竪穴住居址が17軒重複して確認されました。1号住居址は規模が一边約5m、古墳時代中期後半頃の住居址と考えられます。カマドと炉(ろ)の両方を持つカマド初期の状況を示しています。床下土坑が4基確認されました。4号住居址は古墳中期頃で、カマドを持つ、一边約7~8mになるかと思われる大きめの住居です。こちらのカマドは焚き口が「門」の字のように石組みされ、さらに完形の甕(かめ)がカマドにかけられたまま倒れた状態で発見された、類例の少ない住居址です。須恵器の器台(きだい)脚部が1点出土しています。器台は2段分が確認され、下段には三角形の透かしが、上段には長方形の透かしが施されています。

以上、簡単に概観してきましたが、三ノ宮・下木津根遺跡は弥生時代後期~古墳時代後期の住居址群を中心とした遺跡で、当時の集落の様相が時間差を持って確認できました。また、須恵器器台や黒色処理をした甕を伴う初期カマドを持つ住居や、北陸系の装飾器台や銅製責め金具などの特徴ある遺物・遺構が検出されたことから、今後の研究が期待される遺跡となるでしょう。



▲4号竪穴住居址



▲4号竪穴住居址カマド



▲1号道状遺構



▲1号竪穴住居址



▲責め金具状の銅製品